

公開講演会

欧州難民危機の虚像と現実

La crise migratoire en Europe : entre fantasme et réalité

7月9日(日) 14:00-16:30

同志社大学 烏丸キャンパス SK110教室

フランス語(通訳あり)

2015年の難民危機以来、ヨーロッパの国境政策の是非が問われている。人道主義の見地からシリア難民をもっと積極的に受け入れるべきか。あるいは「現実主義」の観点から、国境警備を強化し、大量流入に備えるべきか？

一般に「現実主義」を主張する人々に広く共有されている通説がある。貧困こそ、人口移動の最大の要因であり、国境管理を緩和すれば、貧しい国々の人々が津波のように押し寄せてくるといふビジョンだ。だが果たして、それは本当か？ もしそれが根拠のない不安だとすれば、人道主義と現実を両立させる、もう一つの国境政策の可能性が拓けるのではないか？

本企画では、長年ヨーロッパで移民・難民支援の現場で活躍してきたクレール・ロディエ氏を講師に招き、政治やメディアが作り出す「欧州難民危機」の虚像と現実について話していただきます。



講師：

クレール・ロディエ (Claire Rodier) さんはフランスの移民支援団体GISTI (Groupe d'information et de soutien aux immigrés) で活躍する法律家。Migreurope 共同代表。

著書：

- Migrants & Réfugiés : Réponses aux indécis, aux inquiets et aux réticents (rédigé avec C.Portevin), Paris, Editions La Découverte, 2016.
- Xénophobie business : à quoi servent les contrôles migratoires, La Découverte, 2012.
- Immigration : fantasmes et réalités : pour une alternative à la fermeture des frontières (édité avec E. Terray), La Découverte, 2008.

来聴歓迎・予約不要

主催：同志社大学グローバル・スタディーズ研究科

共催：JSPS科研費15H03145、JSPS科研費15KT0047、グローバル・ジャスティス研究会、FGSS

問い合わせ：菊池恵介（同志社大学グローバル・スタディーズ研究科）kkikuchi@mail.doshisha.ac.jp